

博物館だより

第3・4合併号

発行 長野市立博物館 〒381-22
 長野市小島田町八幡原史跡公園内
 電話(0262)84-9011・9012
 発行日 昭和59年3月20日
 印刷所 日本平版印刷(株)



ワラボテ作り

大日方英雄さん（長野市小市）の実演に見入るみなさん。

文化の網

館長 掛川一夫

いつにない大雪も目に見えて厚みをなくし、地肌が現われてきた所もあります。風はまだ冷たいが、日差しはもう春です。きびしい冬から解放されて春を迎えた喜びはまた格別です。草木の芽ぐみにつれて人足^{ひとあし}ものびる、そんな期待が、博物館を一層明るくしています。春に始まる甲子の年度、初心を忘れず、日々に新たな心構えで、自然の歩みに負けない充実発展を進めたいものです。

願みれば、様々なご縁とご厚意で、貴重な資料をたくさんご寄贈ご寄託いただきましたが、そんな折、思いがけない多くの方と、見えないきずなで結ばれていることを感じました。博物館を介して、文化の網がクモの巣のように広くこまやかに張りめぐらされることを念じています。

クモの巣といっても、この頃はあまりみられなくなりました。さしあたりはありがたいが、これではないのかと心配にもなります。昆虫の羽音も小鳥の鳴声も聞こえない“沈黙の春”が、やがて生物の住めない環境・死の世界に連なる恐れがあるからです。自然までが大きく変えられている今、立止って先人の知恵に学び、万物が共に栄える明るい春を、先々まで喜び迎えられたいものです。

昭和58年度の

特別展・企画展

から



街道と旅展にはこの木札が入場券となりました。

特別展

街道と旅

10月9日～11月3日

当館では、常設展示の概観的な内容を補う意味で、年3回の子定で企画展を催しています。これは、学芸員室の研究の成果を一般に公開する場であると同時に、館の収蔵資料を充実させる機会として十分に活用しています。

開館2周年を記念して開催した特別企画展「街道と旅」は、昭和58年度中の企画展としては最大規模の展示で、古代から近世までの街道やそこを行き交う人や物の様相を、長野県を中心に、汎日本的な範囲で資料を展示しました。

旅とは、自分の生活圏からよそへ行くことと設定し、ムラが生まれた弥生時代に旅の始まりを求めました。

東国と近畿地方を結んだ東山道は、古代の街道として信濃国と中央を結びました。郷や官牧が多い北信地方は、この時代の中央とのつながりの深さを物語っています。

街道の様子が著しく変わったのは江戸時代の初めで、五街道の整備に伴ない北国往還を通った北陸地方の大名行列は、その道々の地方に新し

い文化を広げていきました。そして、街道のにぎわいをいっそう盛んにしたのは、善光寺や伊勢などの寺社もうでの庶民たちでした。

この企画展のため、県内の街道関係、特に中山道、北国脇街道などの宿場関係の資料については、初公開のものも多く、来館者の注目を集めました。この企画展のため図録「街道と旅」を発行、現在も館内で販売しています。

企画展

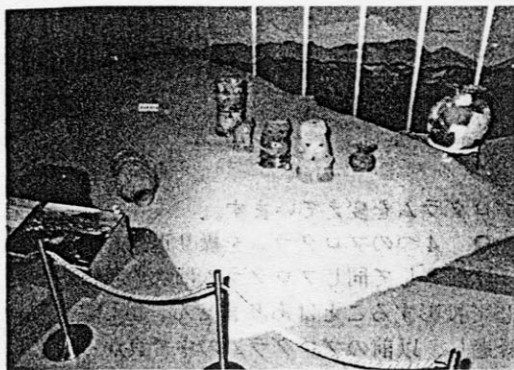
シナノから科野国へ

7月17日～8月21日

今年度最初に開いた企画展は、歴史学考古担当の研究の成果を発表する「シナノから科野国へ」でした。

北信地方の考古学関係、特に土器の研究は、いわゆる箱清水式土器の発表のあった明治以来盛んに行なわれ、中でも弥生時代の研究は、その後に続く古墳時代、国家の成立の前の時代として、地方と中央とのかかわりを探求するうえで重要な研究課題でした。

特に、周囲を山にかこまれ、他からの広角的



シナノから科野国へ展で展示された森将軍塚出土品。



ワラと生活展のミノやワラグッズの体験コーナー。

な響影を受けにくい長野県内の弥生時代の様相は、一つの権力関係が広がる課程を知るうえで非常に適確な地理的条件下にあったと思われま。そんな中で、千曲川流域や天竜川流域で特別に発達した文化圏、さらにその文化の広範囲な地域への伝播と、あたかもムラとムラとのかかわりが広がり、地方のクニが成立していく様子を見るように思われます。

シナノと言う呼び名は、しなしなと柳の小枝が曲がるように流れる千曲川の流域に広がった地域から生まれたと説く森島裕氏は、千曲川流域で力をつけた地方の豪族が、長野盆地の南部の地域を中心にして勢力をたくわえ、国家の誕生にかかわっていくことを指摘されました。

県内の地形模型の上に、それぞれの地域から出土した土器を並べるなど展示に工夫し、見学の手引に、実測図などを主体とした図録を発行しました。

米を主食としてきた私たちの生活のなかで、ワラは大変身近なものであり、日本人の生活に密着した独特の「ワラの文化」が形づくられてきました。「ワラと生活」展ではこうしたワラ製品を通して、人々が自然との関わりに智恵をしばらくながらこれまで育んできた生活文化の足跡をたどります。

生活の中のワラ 「衣生活」から「人の一生」までの11項目を取り上げ、私たちの身の回りにみられるワラ製品を展示しています。

手仕事と用具 私たちの生活の中からワラ製品はほとんど消えてしまい、今では画一的な化学製品がそれにとってかわっています。しかしながら、手仕事によって作られたワラ製品にはワラの温かさとぬくもりが感じられます。こうした手仕事の技とその用具をみていただきましょう。

はきものみるワラ民具の地域性 日常的なはきものは地域的な生活文化を探る上で好材料となるものです。展示では豪雪地・平地地・山間地の各地域をとりあげ、自然環境と呼応した民具の地域性を探ってゆきます。

体験コーナー 「観る展示」から「参加する展示」としてワラ製民具を実際に身につけて、ワラのぬくもり、生活文化のぬくもりを肌で感じていただくコーナーです。

また津南町歴史民俗資料館所蔵の国指定重要有形民俗文化財「秋山郷及びその周辺地域の山村生産用具」の中からワラ製の民具20点を特別展示しています。

企画展			
入場券	入場券	入場券	入場券
100円	200円	300円	400円
ワラと生活		3月25日	
12月19日		3月25日	
1981.1		1981.11	



星の世界

—プラネタリウム—

回を重ねるごとに人気が増しているプラネタリウムは、そのプログラムを当館のスタッフが独自に制作しています。

皆さんをどの様に星の世界へお誘いしているのでしょうか。

Q 年に何回プログラムが変りますか？

当館のプラネタリウムはコンピューターにより投影機を操作し、録音されたナレーションにより解説していくという方法をとっています。これで1つのプログラムを制作しますので、時間と経費の点から現在は四季に合わせて年4回

プログラムを変えています。

Q 4つのプログラムを繰り返すのですか？

原則として同じプログラムは次の年に繰り返して投影することはありません。但し、何年か経過し、以前のプログラムの中で良かったものを再び投影することもあるかもしれません。

Q プログラムはどのように作られますか？

プログラム制作はシナリオを書くことから始まります。まず中心となるテーマを決め、季節を考え合わせ、資料をできるだけ多く集めます。取捨選択を繰り返しながら30～40分の内容に組



麦星(アルクトゥルス)やすばらは農耕を営む人々にとって季節を知らせてくれる重要な星でした。



船乗たちは北斗七星を「西三の星」と呼んでいました。これは丁半からきた名前のようにです。

20万人目の入館者

—開館3年目の第一日に—

昭和56年9月23日に開館した当館は、昨年満2年を迎えました。

9月23日の開館記念日にはちょうど20万人目の入館者を迎えました。20万人目の幸運に恵まれた方は、東京都三鷹市から訪れた若林藤四郎さんでした。若林さんには掛川館長から記念品が贈られました。

当館では常設展の外に特別展、企画展などを催し、皆さんのご来館をお待ちしております。

入館者状況

昭和58年1月～12月

入館者総数 82,127人

		特別展	常設展
一般	個人	333,25人	3,636人
	団体	16,758人	515人
高校生	個人	974人	38人
	団体	1,619人	0人
小中学生	個人	11,961人	864人
	団体	11,253人	1,184人
計		75,890人	6,237人

開館からの累計 231,218人



プラネタリウムで熱心に説明を聞いています。

み立てていき、シナリオが書き上ります。

Q プログラム制作にあたり、苦心する点や問題点はどんな所ですか？

解説者が肉声で説明するわけではないので、いわば押しつけの投影になりがちです。そのために入場者の皆さんにいかにも満足していただけるプログラムを作るのが大きな課題です。

Q 今回の春のプログラムを通して、どんなことを皆さんに知ってもらいたいですか？

今年の春は「一升星と七つ星」を投影しています（3～5月）。一般的になった西洋の星の名前ばかりでなく、日本人が名付けた星もたくさんあり、それらが私たちの生活に根ざした身近な星であることを知っていただきたいと思えます。そして、ぜひそれらの星をほんとうの夜空で捜してみてください。

天体教室

今年度も昨年同様に天体教室を行いました。博物館前庭を会場にして、春に月の観察を含めて3回、夏秋は星と月の観察をそれぞれ1回ずつ計5回実施しました。

まず準備として「太陽系」「人類月に方つ」などの映画を見て、さらにプラネタリウムで季節に応じた星座や星雲星団の名称、見どころの説明をし、それから前庭に出て望遠鏡を使って実際に星を見ます。

星の雄大さを味わうのは大変好評です。毎回100%近い出席率で、そのうちの半分以上は親子連れです。

雨天などで実際の星が見られない時はプラネタリウムで季節の星座を見て勉強します。



重要文化財

銅造観音菩薩立像（山千寺）

昨年9月23日から11月3日まで、国の重要文化財に指定されている銅造観音菩薩像が展示室2階、慈悲のまなざしコーナーに展示されました。この観音菩薩像は長野市若槻の山千寺という部落が守っています。江戸時代に戸隠山顕光寺の末寺の山千寺がありましたが、維新後廃滅し、今はそこに観音堂があります。

この観音菩薩像は面貌、口元の微笑、衣文の褶などに飛鳥仏の面影を残した白鳳仏で、長野県にある最古の仏像の一つです。その特徴はふくよかな顔と軀軀の比率の異様さにあります。

今年も9月23日～11月3日まで展示予定です。



この冬博物館では……



機織り—木綿機を織る—

常設展示室2階の移築民家の中では、餅つき・しめ縄づくり・ものづくりなど今に伝承される民俗行事などを随時行ない、有形・無形の民俗文化財を活用展示する場としています。今回は3月までの土・日曜日に機織りの技術展示(実演)を行なっています。

手機は自給自足を生活の原則としていた農家の仕事の一部でした。従って、野良着や普段着は木綿機で盛んに織られました。戦前まではこの農家でもみられた光景で、今回はこうした生活に密着した木綿機を特に取り上げました。

もちつき

12月25日に毎年恒例のもちつきが展示室2階の民家の土間で行なわれました。このもちつきは民俗行事の一つとして、毎年12月の年末年始の休館前の最終の日曜日に行なっています。

博物館の職員がきねを握り、6白分のもちをつきました。

つきたてのモチは民家の居間で、あん・きたこ・ごま・大根おろし等で丸められ、入館者の皆さんに食べていただきました。

普段は立入れない民家の居間もこの日は開放され、いろいろの回りに座って食べるモチは、また格別の味がします。

今年はどうぞあなたもおでかけください。



しめ縄づくり教室

昨年度に続いて「しめ縄づくり教室」を12月18日と25日の両日にわたって開きました。

「注連」は神聖な場を区切るしるしとして張りめぐらしたり、立てかけたりした民間信仰が伝承されたものです。特に正月には年に一度の歳神さまを迎えるためにいろいろな準備をします。しめ縄もその1つで新しい年を迎えるための人々の素朴な心がまをえを示し、門口や各々の場を司る神に飾られます。

こうしたしめ縄の学問的意義を学習すると共に、実際に数種類のしめを一日がかりで製作しました。



❖ 展示の見どころ ❖

善光寺とその信仰

近世では、経済基盤となった家康の寺領寄進状を初めに、現本堂造営を中心に行いました。

用材を信濃一円の原始林などに求め、川を流して集め、造営地では作事小屋が立ち並んだ様子を分布図・筏の權・古絵図・平面図にし、木寄帳・同不足帳などの古文書で裏付けました。膨大な費用を明細に書いた厚い勘定帳もあります。この費用は全て精力的な回国開帳で集められ全国からの浄財でまかなわれました。

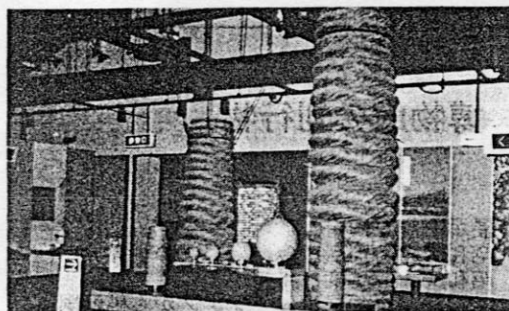
その結果、諸国から善男善女が参詣に訪れて

境内が賑わった様子が、古絵図や立ち並ぶ常夜燈からうかがえます。当時堂庭で売られた善光寺絵図は当代一流の絵師が描いたもので、善光寺の繁栄ぶりがしのべられます。



花 火

信州は江戸と並び、打上花火が盛んです。江



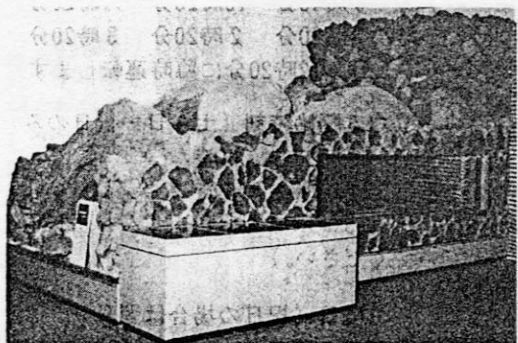
戸時代末期、遊廊の客寄せのために打上げられたのが初めですが、明治30年代からはえびす講（11月20日）に煙火大会が開かれてきました。

展示してある二尺玉筒は、鷺沢平六氏により製作された標もので、大正6年に使用され、その重さは2.5トン程あります。二尺玉の直径は60cm、重さは50～70kgあり、打上げには黒色小粒火薬が4.5kg必要です。ちなみに現在花火を上げようとする2尺玉で36万円程かかります。

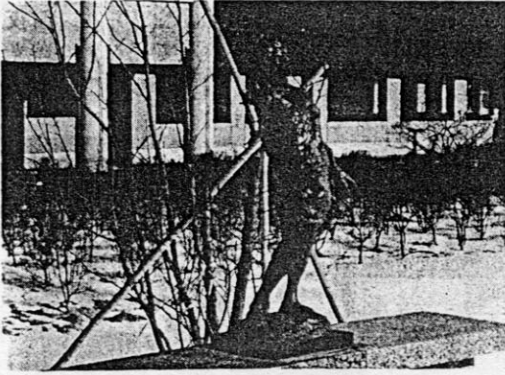
大衆を楽しませてくれる花火ですが、多量の火薬を使用するため事故も多く起りました。しかし、一発にかける花火職人の気質には信州人特有のものが感じられます。

合掌形石室 竹原笹塚古墳

古墳コーナーには、市の指定文化財である長野市松代東条の奇妙山と尼巖山の山麓扇状地斜面に現存する竹原笹塚古墳を複製し展示してあります。造られたのは6世紀中頃と思われ、積石塚円墳ですが、現在は石室部が残っているだけです。天井部分の大きな石の組み方を合掌形と言い、全国的にも珍しいものです。また、内面は赤色塗彩の痕跡が見られます。副葬品は、この古墳出土と伝えられている馬具類が数点あ



るだけで詳しいことは分っていません。みなさんも機会があったらぜひ一度実物を見学することをお勧めします。



野外彫刻

—吉田芳夫作 演技者—

博物館前の公園には、長野市野外彫刻賞入賞作品3点が設置されています。これは昨年10月にお目見得した、「私の哲学の表現です。いわば自刻像ですよ。」という吉田氏の会心の作で大理石の正座がよく似合うギリシャ彫刻風の良い作品です。博物館の建物とその背後に遠く連なる北アルプスの山脈を背景とした姿は、公園を訪れる人々に強く印象づけます。

スケジュール

	3月	4月	5月	6月	7月
常設展示	長野盆地の歴史と生活				
特別展示	第7回企画展 ワラと生活(2/19-3/25)	昭和58年度 新収蔵資料展(4/8-5/13)			第8回企画展 衣装の宝庫史 (7/15-8/19)
プラネタリウム	春のプログラム『一升星と七つ星』			夏のプログラム	

天体教室……星の観察 5月20日(日) 月の観察 5月5日(土)

自然教室……堆積岩の教室 6月2日・3日

(応募要綱の詳細は長野市広報「みんなの広場」にてその都度お知らせ致します。)

博物館利用案内

開館時間 午前9時～午後4時30分
(入館は午後4時までです。)

地震体験室運転時刻

午前 9時40分 10時20分 11時20分

午後 1時20分 2時20分 3時20分

(日・祝日は12時20分に臨時運転します。)

プラネタリウム開始時刻(土・日・祝日のみ)

午前 9時30分 11時

午後 1時 3時

(途中からは入退場できません。早目においでください。)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

祝日の翌日。

年末年始 12月29日～1月3日

1月の第4週(日曜日～土曜日)

(館内消毒のため)

博物館の刊行物

展示概説案内書

昭和57年特別展図録「はにわの世界」

昭和56・57年度 年報 1

昭和58年企画展図録「シナノから科野国へ」

昭和58年特別展図録「街道と旅」

昭和58年企画展図録「ワラと生活」

